

## 課外活動「『学びの上所小』教育研究会への参加」

金田 良哉

(平成 29 年度学校経営コース修了生)

特定連携協力校である新潟市立上所小学校の教育研究発表会への参加は平成 28 年度に引き続き、2 度目の参加となった。

特定連携協力校での講義では、教育課程などを学んだ。昨年度の研究会では「大学院生によるブリッジ講座」としてポスター発表の機会を得た。大勢の参加者から貴重な意見をもらうことができた。



今年度の研究会では「公開授業」「授業協議会」「新潟大学教職大学院フォーラム」に参加した。

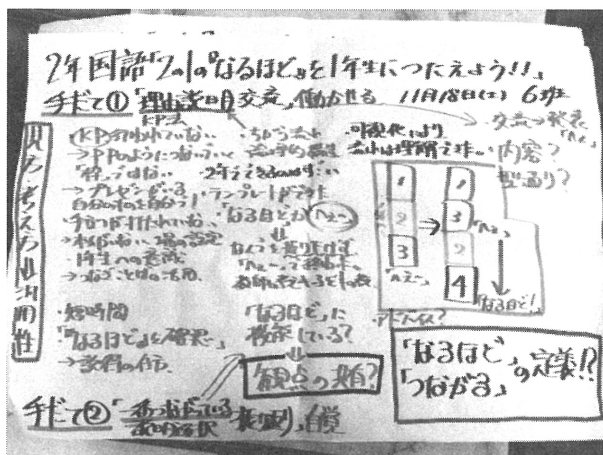
「公開授業」は 2 年国語を参観した。授業者は「自分の見つけた『なるほど』を、1 年生に向けて『なるほどの本』にし、理由をつけて伝える。『なるほど』を共有するために、紙芝居プレゼンテーション（以下、K P 法）、ギャラリーウォークをする」として、授業を行った。



授業の分析視点は 2 つあった。1 つ目は「K P 法とギャラリーウォークの有効性」、2 つ目は「『なるほど』の理由と説明が最もつながっている説明を選ぶ活動の有効性」である。

1 つ目の視点では、K P 法とギャラリーウォークにより、自分の『なるほど』を他者意識をもって眺めることができたことが成果であったと授業者は述べた。

2つ目の視点では、授業者は、全員が「今回の理由を説明する活動が『別の状況でも使えそうだ』という見通しをもった振り返りをした」ことから、授業の有効性が確認できたとした。



協議会はファシリテーションの手法を用いて行われ、院生は「ファシリライター（ファシリテーター＋ライター）」の役割を担った。

参加したグループでは、KP法について、議論となり、授業の代案を検討することができた。また、「なるほど」「(理由と説明

の) つながり」の定義について話し合われ、観点の共有が必要であるのではないかとのまとめになった。

指導者は「教材と多読、ヒントカードが有効であったこと、実生活で生きて働く学力である汎用性のある思考力を培う授業であった」と評価した。

また、全体シェアリングにおいて、授業に関する成果や課題、具体的な提案が多く出された。これは、今回の授業が参加者にとって、意味深い提案であったことを示している。

昼食休憩時に体育館で行われた「新潟大学教職大学院フォーラム」では、研究者教員、実務家教員による教職大学院の紹介の後、院生代表として以下の3名が自身の研究発表を行った。

名前	所属	内容
館岡信也	見附小	学校と地域が理念を共有する 学校づくりに向けて
金田良哉	小針中	地域との連携を深める教育の推進
齋藤誠也	小針小	学びを広げ深める姿を具現する 協働的な学習活動の在り方

短時間ではあったが、参加者は興味をもって聞き、発表後には何人かが個別に質問をしに来る姿が見られた。

協議会での「ファシリライター」や新潟大学教職大学院フォーラムでの「研究発表」など、貴重な機会をくださった遠藤校長先生をはじめとする新潟市立上所小学校の皆さんに感謝したい。